

刑法各論 I

科目ナンバリング CRL-201
選択 2単位

堀田 晶子

1. 授業の概要(ねらい)

刑法各論の授業では、各犯罪の特徴や違いを明らかにするとともに、それらの相互関係を学びます。春期は個人法益に対する罪の中から、生命・身体に対する罪、自由に対する罪、名誉に対する罪を取り上げます。

2. 授業の到達目標

- ①各犯罪の成立要件や相互関係を理解し、具体的な例を挙げて説明できる。
- ②刑法各論の代表的な論点について、判例の立場や学説の対立を意識しながら、自分の言葉で説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

基本的には試験によって評価するが、感想文やレポート等を課すこともある。評価配分の目安は、試験90%、授業への貢献度10%である。授業への貢献度は、課題の提出状況や授業態度等によって総合的に判断する。

4. 教科書・参考文献

教科書

以下の教科書をお勧めします。本には相性があるので、この中から自分が読みやすいと思ったものを選んでください。

大塚裕史・十河太朗他〔著〕『基本刑法Ⅱ 各論』〔第2版〕(2018) 日本評論社

井田良〔著〕『講義刑法学 各論』〔第2版〕(2020) 有斐閣

西田典之〔著〕・橋爪隆〔補訂〕『刑法各論』〔第7版〕(2018) 弘文堂

守山正・安部哲夫〔編著〕『ビギナーズ犯罪法』(2020) 成文堂

参考文献

佐伯仁志・橋爪隆〔編〕『刑法判例百選Ⅱ 各論』〔第8版〕 有斐閣

5. 準備学修の内容

特に復習に力を入れてください。毎回の授業で扱ったテーマについて、レジュメやノートを読み返しながらか、復習しましょう。勉強すればするほど疑問がわいてきます。疑問点が出てきたら、テキストを繰り返し読みながら、まずは自分で考えてみましょう。図書館を大いに活用し、時には友人と議論してみてください。それでもわからない場合は、教員に質問してください。

6. その他履修上の注意事項

①刑法総論をすでに履修済み、あるいは並行して履修していることが望ましいです。

②授業をよく聞いて、その都度レジュメに書き込むか、ノートを取るようにしてください。自分で書いて、理解することが大切です。授業の内容が聞き取れなかった場合は、あやふやのままにせず、すぐに教員に確認してください。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション:刑法総論と刑法各論の違い
- 【第2回】 生命に対する罪① 人の始期・終期
- 【第3回】 生命に対する罪② 殺人罪と自殺関与・同意殺人罪／偽装心中
- 【第4回】 生命に対する罪③ 前半のまとめ
- 【第5回】 生命に対する罪④ 遺棄罪
- 【第6回】 身体に対する罪① 暴行罪と傷害罪
- 【第7回】 身体に対する罪② 演習問題:暴行罪と傷害罪
- 【第8回】 自由に対する罪① 逮捕・監禁罪
- 【第9回】 自由に対する罪② 略取・誘拐罪
- 【第10回】 自由に対する罪③ 住居侵入罪
- 【第11回】 自由に対する罪④ 脅迫罪と強要罪
- 【第12回】 名誉に対する罪① 名誉毀損罪と侮辱罪
- 【第13回】 名誉に対する罪② 名誉毀損罪—公共の利害に関する場合の特例—
- 【第14回】 名誉に対する罪③ 演習問題:名誉毀損罪と侮辱罪
- 【第15回】 春期のまとめと試験(予定)